

長期未整備公園緑地の新たなプログラムを受けて「借地対応オアシスの森事業」 藤巻町での「具体的な活動方針についての検討会」

第1回検討会の議事内容メモ

日時：平成30年10月28日(日) 午前10時～12時

場所：藤巻町集会所

参加者 自治会役員 5名(服部会長 池田副会長・事務局長 岡田副会長 岩瀬会計 山田会計監査)を含めて14名

藤巻町南東部(14、15組)7名 新池沿い(12、13組)4名 その他3名

1 現状の認識について

最初に、戦前、戦後、高度成長時代 バブル経済時代 21世紀に入ってから藤巻町・都市計画公園としての歴史を振り返って、現在町内の立場について確認した。

① 公有地拡大法に基づく公園予定区域の先行取得は、平成25年以降、藤巻町内は受付中止。
数十年先にいたるまで再開の見通しはない。(これは整備プログラムとは関係ない事実)
都市計画公園削除検討区域は勿論、借地対応区域も名古屋市による有償買収はいかなる形でもないことを前提に将来生活設計を考える必要がある。

② 藤巻町の住環境に特に不満を有する区域住民が切実に願うこと
特に、高齢化、一人暮らし等の問題を抱え、どのように生活設計を考えるか。
借地対応による「森づくり」「まちづくり」は以下の諸問題解決につながるものでなくてはならない。

- i 藤巻町南東部 新池沿いの住民は「安心・安全に暮らせる“まち”」を望む。
これは、「安心して通行できる道路」「豪雨の処理と下水」「樹林等の倒木から守る」である。
藤巻町の生い立ち・分譲地の歴史 等を考えると、行政が直ちに対処することは難しく、
「喫緊の対応」「長期的な展望にたった対応」の両面から考えていく必要がある。
- ii 私道問題は喫緊に取り組む必要がある課題であるが、藤巻町開拓の最初に遡る難しい問題である。
この問題は、1950年代に遡るが、住民の知らない間に起こった私道買収問題を起因とするこの問題は民間の問題として認識され、更に行政は、高速道路時代に不用意な対応で事態を悪化させた。以後、放置された状態となっており、藤巻町住環境問題の根源となっている。
今、正面からこの問題に立ち向かう時期に来ている。
当時の買収の当事者である私道地主の世代交代も進んでいるなかで、藤巻町住民自身で私道地主と折衝することも必要であるが、上記の経緯も考えて行政からも、第2次整備プログラムにおける私道地主に「行政の買収はあり得ないこと」を明確、適切に伝えてもらう必要性を、申し出ることも大切である。
- iii 「安心して通行できる道路」を考えると、道路舗装もさることながら、年に数回は起こ

る豪雨の雨水処理、特に藤巻の森にたまる雨水の排水である。(同時に生活用水の処理も必要) 道路にこだわらず、藤巻の森特に公有樹林地に適切に誘導して、設備が整った市街地の下水に流す方策を考えて行政に申し入れることも考えたい。

iv 住民自身でとりあえず行えることを実施する。

そのための資金として

自治会の「高速道路活動時のプール資金」「自治会費の剰余金」の取り扱いを検討してはどうか。

将来、「まちづくり」「森づくり」の一環として、市やその他の助成金等も考えることにするが、今、(地主の協力を得られない) 私道維持、崩壊の危険がある道の緊急整備等に必要な資材購入、対応策のアドバイスを得るための費用等を捻出するために凍結されている自治会預かりの資金の活用を検討する。これを自治会に提案したい。

③ 藤巻の森 を生かした「まちづくり」 オアシスの森事業への貢献 の必要性

②に掲げた住民の願いは、「藤巻の森と共生した永住」のなかで実現を図らなければならない。

また「藤巻町住民」の力だけでは、実現できることはほとんどなく、行政や「まちづくり」「森づくり」の専門家の協力を得て、協働の「もりづくり」「まちづくり」を目指さなければ何も出来ないことを銘記しなければならない。

そのためには、藤巻の森で既に事業認可され、平成 36 年収束とされている「公園事業区域」はもとより、第 2 次整備プログラムで借地対応とされた区域、なかでも「既に先行取得済の広大な樹林」や「樹林の 1 画に住宅が残る“本当の里山”」区域も含めて「オアシスの森」事業の推進が絶対に必要である。

そのことは「住宅地としての藤巻町」を都心近くの「緑と共生する住宅地」というブランドをもつ「星ヶ丘近郊の個別住宅地」としての魅力を高めるためにも「藤巻の“さと”構想」実現のためにも不可欠である。

2 今年度に進める具体的な事項

喫緊の課題のための「豪雨時の雨水処理」「新池沿い私道の崩壊防止策の検討」の方案を考えるワークショップを専門家の協力を得て早い時期に開催する。

また③のために、「藤巻の“さと”を育む会」は「オアシスの森事業」実現のために努力する。当面、今年度は機運を盛り上げるために下記の行事を遂行したい。

本日は、現状認識と今後の基本方針を中心とし、時間が不足したために、具体的な次回以降の日程や議題は、南東部樹林区域については、池田事務局長 佐藤 14 組組長、宗 15 組組長、新池沿い問題については、池田事務局長、山田会計監査、鈴木 13 組組長で協議して決定してもらうことにする。

- 豪雨時の雨水処理や排水問題 新池沿いの私道崩壊問題を考えるワークショップ

名大環境学研究科 高取先生等、地域まちづくりアドバイザー 藤森幹人氏等にも協力していただき市当局に提案する住民の案を協議するワークショップを開催したい。

- 森づくりの市民活動家 眞弓浩二氏等にも協力していただいて、オアシスの森事業を藤巻町で早期に着手してもらうために以下の事項を藤巻町で取り組むべく検討したい
以下にその例を掲載。具体的スケジュールと参加者の募り方の検討)

1 体験活動の実施計画作成

i) 森の手入れの体験： 11月～4月の冬期 (眞弓先生に依頼?)
(この間で1～2回。どこでやるか? 地主の許可取得)
(日時・場所?)

ii) 観察会 (子どもでも大人でも老人でも参加可能)
植物：希少種、どんぐり、きのこ (長谷川先生に依頼?)

動物：昆虫 (間野隆裕氏に依頼?)

iii) 木こり体験 (眞弓先生に依頼?)
(人それぞれの体力に応じた木こりの方法を楽しく教わりながら)
(日時、場所?)

iv) クラフト (例えば14組三輪さんに手作り木のおもちゃ作成を習う)

v) その他行事 例えば藤巻中を見て回る
食べる会：
・野草の天ぷら・・・春(タラの芽、つくし・・・)

(内容をセット) ・流しそうめん・・・夏

・五平餅 ・・・・いつでも可

- 藤巻町自治会のプール資金、剰余金の「住民生活の住環境を守る」ために活用する件についての相談 を上記の諸行事のなかで考えたい